

## 第4学年社会科学習指導案

4年1組 指導者 原田圭介

### 単元 未来に残したい！わたしたちの瑠璃光寺五重塔

#### 1 本単元で子どもが創出と受容、転移を行う各教科等の本質（見方・考え方）

社会的事象と自分たちとの関わり方について考えること

#### 2 本単元で、各教科等の本質（見方・考え方）の創出と受容、転移を行っている子どもの姿

本学級の子どもたちは、廃棄物を処理する事業や飲料水を供給する事業、自然災害から人々を守る活動の様子について考える学習に取り組んできた。このような子どもたちが、文化財の保存や継承の取組を基に、社会的事象と自分たちとの関わり方について考える学習に取り組む。

古くから伝わる文化財である瑠璃光寺五重塔と自分たちとの関わり方について考えることは難しい。廃棄物や飲料水、自然災害は、自分たちの生活に直接影響を及ぼす社会的事象であるため、子どもたちは切実感や必要感をもって自分たちの関わり方について考えることができた。一方、瑠璃光寺五重塔は自分たちの生活に直接影響を及ぼす社会的事象ではない。だからこそ、瑠璃光寺五重塔と自分たちとの関わり方、つまり、瑠璃光寺五重塔を残すために自分たちにできることについて考えることは、今後どのような社会的事象に出会っても、自分たちの関わり方について考えていくことにつながるであろう。子どもたちは、瑠璃光寺五重塔の保存や継承の取組の困難さや、未来への願いを基に、瑠璃光寺五重塔を残していきたいという思いをもつ（創出）。そして、瑠璃光寺五重塔を残すために自分たちにできることについて考えていく（受容）。さらに、他の社会的事象でも、自分たちの関わり方について考えるようになる（転移）。こうした学びの積み重ねが、学習したことを社会生活に生かそうとする姿につながるのである。

そこで、以下のような支援を具体化し、本単元でめざす子どもの姿の実現を図る。

- 瑠璃光寺五重塔の保存や継承に携わる人々から話を聞く場を設定する。そうすることで、保存や継承の取組を共感的に捉え、自分なりの思いをもつことができるようにする。【創】
- 自分たちにできることについて考えることは、誰のためになるのかを問う。そうすることで、自分たちの関わり方について考えるよさに気付くことができるようにする。【受】
- 古い年中行事を残すために、自分たちにできることについて話し合う場を設定することで、他の社会的事象でも自分たちの関わり方について考えることができるようにする。【転】

#### 3 本単元の目標

- 瑠璃光寺五重塔の保存や継承への取組について調べることをとおして、瑠璃光寺五重塔と自分たちとの関わり方について考えることができるようにする。
- 社会的事象と自分たちとの関わり方について考えることをとおして、自分たちにできることを考えたり、実践したりしようとすることができるようにする。

#### 4 本単元における評価規準

知識・技能（知）	思考・判断・表現（思）	主体的に学習に取り組む態度（態）
○瑠璃光寺五重塔の保存や継承への取組や、そこに込められた人々の願いを理解している。	○瑠璃光寺五重塔と自分たちとの関わり方について考え、表現している。	○瑠璃光寺五重塔の保存や継承への取組について、意欲的に調べようとしている。

#### 5 指導計画（全9時間）

- 第1次 瑠璃光寺五重塔についての気付きや疑問、調べたことを交流する（2時間）
- 第2次 瑠璃光寺五重塔と自分たちとの関わり方について考える（6時間）【本時6／6】
- 第3次 古い年中行事と自分たちとの関わり方について考える（1時間）

